

皆さんの宿題を見て気づいたこと

木下大輔

2020 年 09 月 30 日

1 「話し言葉」と「書き言葉」

日本語では、「話し言葉」と「書き言葉」が違うことがよくあります。日常の会話で使われるものが「話し言葉」で、文章を書くときに使われるものが「書き言葉」です。会話をしているのに「書き言葉」を使うと、相手に堅苦しい感じを与えます。或いは、公式の場では礼儀正しい感じを与えます。その一方で、文書として作文するときに「話し言葉」を使うと、不自然な感じがしたり、不真面目な印象を与えることになります。どのような状況でどちらを使うべきかということをよく考えて、上手く使い分ける必要があります。

例えば、真面目な内容を文章として書くのに、「同じマスクを何日も使い続けては、ウイルス性肺炎の感染防止に有効じゃない」と書くと、必要以上にくだけた表現になってしまいます。もちろん意味は通じますし、会話で使う場合には問題ありません。しかし、文章として書く場合には「同じマスクを何日も使い続けては、ウイルス性肺炎の感染防止に有効ではない」とした方がよいです。

台湾では、日本のテレビ番組を見て日本語に慣れ親しんでいる人が多いせいか、文章を書くときにも「話し言葉」を使う人が多いです。注意しましょう。

2 「です・ます」調と「だ・である」調

日本語では、語尾が非常に重要です。文章の最後の部分が少し違うだけで全く意味の異なる内容になります。また、文章の最後の部分を少し変えるだけで、丁寧な表現になったり、きつい表現になったりします。

語尾を「です」や「ます」にすると、丁寧な表現になり、柔らかい印象を与えます。それに対して、語尾を「だ」や「である」にすると、断定的な表現になり、きつい印象を与えます。

会話で用いる場合、語尾が「です」や「ます」で終わる表現は、誰に対しても使えます。しかし、語尾が「だ」や「である」で終わる表現を、年上の人、目上の人、また顧客に対して使うと、相手は不快に思うかもしれません。例えば、会社の上司に返事をするときに「そうだ」と言うと、その上司は気分を悪くするでしょう。「そうです」と言う必要があります。

科学についての文章を書く場合、どちらを使っても構いません。しかし、同じ文章のなかで、両方を混ぜて使うことはよくありません。どちらか一種類だけを使うようにしましょう。作文をするときには、常に語尾に気をつけて文を作るようにする必要があります。

3 句読点の使い方

中国語でも日本語でも、「。」(句点)と「、」(読点)を使います。しかし、使い方が異なる場合があります。

中国語では、「、」や「，」を使って、複数の独立して成立し得る文をつなげて、一つの文とすることもありますが、日本語では、「、」を使って複数の文を連結することはありません。例えば、「です」があれば、そこは必ず一つの文の終わりであり、読点を置いて文を終了させます。したがって、「台湾は亜熱帯に位置する島です、甘く香りの良い果物がたくさん収穫されています。」は不自然な文になります。「台湾は亜熱帯に位置する島です。甘く香りの良い果物がたくさん収穫されています。」とするのが普通です。

4 ひらがなとカタカナの練習

ひらがな(平仮名)とカタカナ(片仮名)の一部を上手く書けていない人がいるようです。文字を綺麗に書けるかどうかはとても重要です。美しい文字は読み手に好印象を与えます。逆に、内容が良くても、読みにくい字で書かれた文章は相手に悪い印象を与えかねません。不利益を受けたり、最悪の場合、読んでももらえないかもしれません。

ほとんどの人は、五十音のほとんどを上手く書けていると思います。しかし、確認のため、最低限一回はひらがなとカタカナの書き方の練習をしておくことをお勧めします。期末試験では、手書きで文章を書いて提出してもらいますので、五十音のすべてを標準的な書き方で書けるようになっているか確かめておくとい良いでしょう。

練習の際には、書き順に注意しましょう。書き順が合っていると、書いた字は綺麗に見えます。逆に、書き順が間違っていると、書いた字は不自然に見えます。